



きずな

絆



よくまなび よくあそび

～ 人生を拓く力の育成 ～

まなび いっぱい
やさしさ いっぱい
げんき いっぱい

存在認める言葉かけ

明け方まで降り続いた雨の影響で、翌日に延期をした運動会ですが、無事に開催することができました。暑い中、応援に来ていただき、ありがとうございました。また、PTAのボランティアの方々には、準備や片付け作業等ご協力いただき誠にありがとうございました。

子どもたちは、保護者の皆様に見守られる中、一生懸命に走り、団体競技に取り組み、そして、表現演技を披露してくれました。キレッキレのダンスを披露する姿や、優雅でありながらも力強い一体感のある組体操を見て、子どもたちの成長している姿に驚きました。保護者の皆様も、健やかに成長しているわが子の姿に、目を細めていたことと思います。



子にどう育てほしいか——。親なら誰もが、「健やかに成長してほしい」「自分らしく輝いてほしい」と願うものです。しかし、そうした親心とは裏腹に、日本の若者は自分自身に満足していたり、長所があると感じていたりする割合が、諸外国の若者と比べて低いという調査結果（子供・若者白書）があります。自信が持てない背景にはさまざまな状況があると思いますが、その一つに、子の「自己肯定感」を育むことがいかに大切か、それを知る親世代が意外と少ないということがあるそうです。

子どもは、親に褒められ、認められることの繰り返しの中で、自己肯定感が高まり、自分自身で人格を磨くそうです。教育評論家の親野智可等氏は、子どもの褒め方には、「条件褒め」と「無条件褒め」の2種類があると語っています。

「条件褒め」は、子どもが何かを達成した時に褒めることです。「テスト100点すごいね！」「宿題頑張ったね！」「一人で留守番できて偉いね！」といった声かけです。一方「無条件褒め」は、「生まれてきてくれてありがとう」「あなたがいてくれて本当に幸せ」「どんなことがあっても、パパとママはあなたの味方だよ」「勉強が苦手でも関係ないよ。どんなあなたも大好きだよ」など、存在自体を褒めてあげることだそうです。「条件褒め」も大切ですが、子どもの自己肯定感を高めるためには、「無条件褒め」が非常に重要であると、氏は語っています。さらに、褒めることとセットにしてほしいのが「共感」です。点数のよくないテストを見せられたときに、「悔しかったね」「たまにはこんなこともあるよ」などと共感することで、子どもは安心しますし、親への信頼感も高まります。

「存在を認められた」と感じた子は、「失敗しても受け入れてもらえる」という絶対的な安心があるので、失敗を恐れずに多くのことに挑戦できるようになります。そして、挑戦を重ね、成功体験を積んでいく中で、自分らしく輝くことができるようになります。

日本の親は、子どもを認め、褒めるハードルが高すぎるという指摘もあります。自分自身も含め、教師もそうなのかもしれません。

子どもたちの「ありのままの姿」を受け入れ、未来の宝が伸び伸びと成長できるよう、力を尽くしていきたいと思います。



学校教育目標【取り組みの重点】



<まなびいっぱい> ～ 確かな学力の育成

○ 基本を大切にする

小学校でのつまずきは、卒業後まで影響します。日々の授業を大切にし、基礎基本の定着を図ります。定着させるためには、反復練習が必要なものもあります。本校では、低・中・高学年別に「家庭学習の手引き」を配付し、ご家庭との共通理解を図っています。

○ 「体験」を重視する

学習は机上だけではできません。人との交流や自然体験など、本物との出会いが実感を伴った理解になり思考を深め、表現力、想像力、創造力を高めます。「本物を見てみよう」「本物に触れてみよう」「実際に体験してみよう」と、学びの中に「体験活動」をたくさん取り入れていることは、大洲小学校の特色のある取り組みの一つです。

○ ICTを効果的に活用する

タブレット端末やICT機器を効果的に活用します。そのためにも「教員の活用スキルの向上」を図ります。また、情報モラル・ネットリテラシー教育にも取り組みます。

○ 読書教育を進める

子どもは読書を通じて、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かにしていきます。また、読書活動は子どもの生涯にわたる学習活動の基礎になるとされ、「万学の基礎」と言われています。

<やさしさいっぱい> ～ 一人一人を大切にし、豊かな心を育む

○ あいさつ、マナーを徹底する

あいさつは人としての基本です。あいさつは毎日の積み重ねでしか身につけません。マナーも大切です。周りへの気遣いや感謝の気持ちを、言葉や行動で表すことができる子どもに成長してほしいと思っています。

○ 人にやさしく自分にきびしく

「人権」は「安全」とともに、すべてに優先します。互いの良さを認め合えるような学級づくりに努め、やさしさや人を思いやる心を育みます。一方、自分に対するきびしさは、困難なことに挑戦し克服する経験の中で育まれます。辛いことでも笑顔で乗り越えることができるよう、達成感を味わえるような機会をたくさんつくっていきます。

○ いじめは、いじめる側が100%悪い

いじめや暴力を正当化する理由はありません。いじめを許さない学級経営を行い、防止、早期発見に努めます。解決には組織で対応します。

<げんきいっぱい> ～ 健やかな体の育成

○ 正課体育の充実と外遊びの励行

学力を身につけるためには、集中力、持続力、忍耐力が必要になってきます。これらの力は体力と無関係ではありません。運動量の確保や様々な運動経験をさせるため、体育の授業の充実を図ります。また、外遊びを推奨し、長縄大会などの行事を推進することで、子どもたちが進んで運動に取り組む機会をつくります。